

令和4年第4回東海村議会定例会行政報告等要旨

令和4年12月1日

令和4年第4回東海村議会定例会の開会に当たり、行政報告等を申し述べさせていただきます。

はじめに、「新型コロナウイルス感染症の状況と、今後の見通しについて」でございます。

オミクロン株のBA.5による第7波は、8月下旬にピークを迎えたあと、ほぼ2か月間にわたり新規感染者数の減少が続いておりましたが、11月以降は前の週の同じ曜日を上回る状況が続き、全国的に増加傾向に転じております。茨城県におきましても、同様の傾向が見られており、第8波への懸念が強まってきておりますので、今後の推移を注視してまいりたいと考えております。

本村のワクチン接種状況としましては、9月25日からは、5歳から11歳までの幼児を対象とした3回目接種を、10月3日からは、2回目接種を完了した12歳以上の方を対象としたオミクロン株対応ワクチンによる追加接種を、11月7日からは、生後6か月から4歳までの乳幼児を対象とした初回接種を村内医療機関の協力の下、開始しているところであります。現在、メインとして実施しているオミクロン株対応ワクチン接種につきましては、接種間隔が3か月に短縮され、接種の加速化も図られたことから、希望される方への接種が年内に終わられるよう取り組んでおりますが、11月27日時点の接種率は26.3%にとどまっており、全国の接種率は上回っているものの低い

状況となっております。ワクチン接種は、自分自身だけでなく、多くの方の命を守ることに繋がりますので、できるだけ早い接種を検討いただけるよう呼び掛けてまいります。

一方で、行動制限がなくなり、人の移動が戻りつつある中、新型コロナウイルスの影響で見送られてきた「大空マルシェ」が4年ぶりに、「東海I～MOのまつり」が3年ぶりに開催されました。皆さまが喜んでおられる様子を見ることができ、規模の縮小、やり方や形を変えるなど、コロナ禍で生まれた新しい発想や工夫を重ねながら大きな一歩を踏み出すことができたのではないかと感じております。来年1月には「スマイルマラソン2023」も3年ぶりに開催されます。閉塞感の続く今、感染拡大を抑えながらもウィズコロナ・アフターコロナを見据えたイベントの開催を一つの契機に、まちの賑わいと経済活動が回復に向かうことを期待したいと思っております。

次に、「高齢者に寄り添ったデジタルデバйд対策・まるっとスマホ大作戦について」でございます。

現在、村では「とうかい“まるごと”デジタル化構想」に基づき、デジタル技術を活用した行政サービスの改革でありますデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組んでいるところでございます。

その柱の一つである「デジタル対応社会の実現」に向けては、スマートフォンを活用できるようになることが、特に高齢者の方々のデジタルデバйд対策を進める上で重要なポイントになることから、今年度から“まるっとスマホ大作戦”と称した「学びの好循環を生み出す取組み」を開始したところでございます。

高齢者の方々がスマートフォンを活用できる社会を着実に実現していくために、「スマホ講座」や「スマホ相談窓口」などの学びの機会を継続的に提供していくとともに、そこから住民同士の学び合いの仕組みを構築するために、スマホ相談に応じる「スマホサポーターの養成」にも一体的に取り組んでおります。

9月から10月にかけて、村内事業者の協力のもと、役場庁舎に「スマホ相談窓口」を実証設置したところ、延べ42人の方から約100件の相談がございました。また、村社会福祉協議会の協力を得て「スマホサポーター養成講座」を開催し、14名の住民の方にスマホサポーターとして登録をしていただきました。今後は、「役場職員を対象としたスマホサポーターの養成」も進めてまいります。デジタル対応社会の実現は行政だけでは成し遂げられるものではないことから、住民の方や地域、民間事業者などとの「協創(共創)」により好循環を生み出し、誰もがデジタル化のメリットを享受でき、豊かな人生を送っていただけるよう積極的に取り組んでまいります。

それでは、行政報告の案件を申し上げます。

報告第22号 寄附の受入れにつきましては、明治安田生命保険相互会社水戸支社 支社長 なかひら やすひろ 中平 泰弘 氏から、地域貢献のため、10万3,500円の寄附の申出があり、これを受け入れましたので、議会に報告するものでございます。

以上で行政報告といたします。